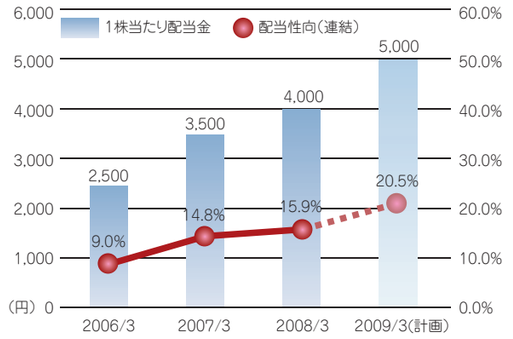
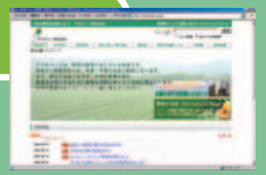
株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
公告掲載方法	電子公告（ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行う）
株式上場取引所	東京証券取引所市場第二部 （証券コード:3392）
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

配当実績



ホームページ
http://www.delica.co.jp



PRINTED WITH SOY INK

会社概要

商　号	デリカフーズ株式会社
英文社名	DELICA FOODS CO.,LTD.
設　立	平成15年4月1日
資本金	759,755千円
従業員数（連結）	198名（他、平均臨時雇用者数791名）
本店所在地	〒121-0064 東京都足立区保木間二丁目29番15号
本社事務所	〒121-0064 東京都足立区保木間一丁目23番2号

役　員

代表取締役社長	舘本　勲武	取締役	大崎　善保
常務取締役	鬼頭　利光	常勤監査役	白石　俊夫
常務取締役	小笠原　真清	監査役	山口　隆
取締役	澤田　清春	監査役	田中　清隆
取締役	杉　和也		

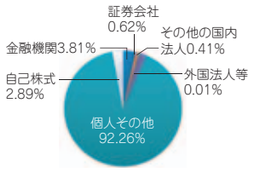
株式状況

発行済株式総数	15,605株
株主総数	1,516名

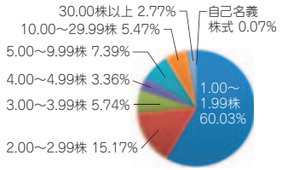
大株主

舘本　勲武	3,272株	デリカフーズ(株)	451株
舘本　篤志	2,898株	鬼頭　利光	432株
岡本　髙宏	724株	岡田　和夫	391株
従業員持株会	600株	野村　五郎	306株
岩崎　泰次	476株	髙山　幸久	240株

株主別分布状況



所有株式数別分布状況



デリカレポート

第6期 第2四半期事業報告書

平成20年4月1日～平成20年9月30日

デリカフーズ株式会社

東証2部　証券コード:3392

デリカの志詩(うた)　(大根の詩)

大根はデリカフーズです
大根は、
生よし、煮てよし、漬けてよし
葉よし、根よし、すべてよし
だから大根はデリカフーズです

デリカフーズは大根です
大根は野菜の代表です
中央アジア
千年以上も昔に中国を経由して
日本に土着しました
春の七草
　～すずな、すずしろ、せり、なずな、
　ごぎょう、はこべ、ほとけのざ～
大根はすずしろ(清白)です
清らかな心が洗われる感じがします
白はどんな色にも染め上げることができます
お客様、仲間、誰の意見も素直に謙虚に
聞くことができます
だからデリカフーズは大根です
デリカフーズは大根役者です
大根の“しろ”と素人の“しろ”とから
生まれた二流の役者です
主役を引き立てる脇役に徹し
謙虚にひたすら努力する役者です
あるときは農夫として
あるときは科学者として
あるときは哲学者として
またあるときは詩人として
汗を流しつつ、夢を追い続ける大根役者です

投資家の皆様へ

皆様におかれましては、平素よりデリカフーズグループをご支援ならびにご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

日本国民の食生活における「野菜」の重要性は年々増大しております。

国民医療費約24兆円(2004年度の一般診療医療費)のうち、約3割を生活習慣病が占めています。この膨大な医療費削減のため、平成20年4月から、生活習慣病予防のための新しい健診(特定健診)と保健指導(特定保健指導)が始まりました。「メタボリックシンドローム」という言葉も広く知られるようになり、全ての国民が健康で長生きできるよう、我々一人一人が日々の生活習慣、特に「食事と運動」を見直す時期が来たといえましょう。

野菜には多くのビタミン、ミネラル、酵素、補酵素、微量栄養素が含まれております。当社グループは「野菜の力」抗酸化力、免疫力、解毒力の研究を進めております。野菜の力は産地や品種、栽培方法によって異なり、また同じ条件でも旬の時期の野菜はとても豊富な力を持っていることがはっきりと分かりました。当社グループは野菜の力を数値化し、消費者の皆様に分かりやすく表示して販売できるようにしたいと考えています。

日本人に必要な栄養素は日本の土にあり、その健康な土地から出来た食べ物(野菜)を食べる事で、真の意味で健康になることができると考えております。そのために生産者の方々と健康な土作りから中身の充実した野菜作りまで一緒に進めております。

当社グループは、医食農を通して日本の環境を考え、そして日本人の健康を考えるために、日々精進して参りたいと思います。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長　舘本勲武

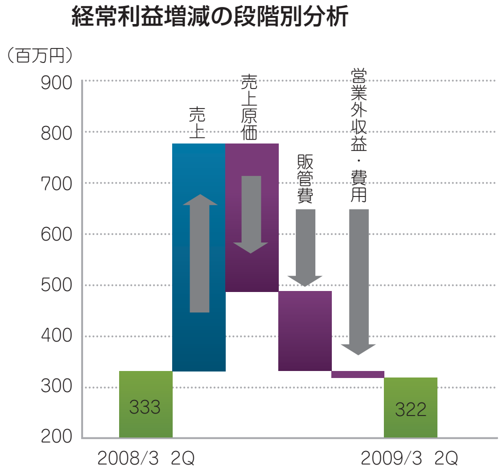
事業概況

当社グループは第2四半期連結累計期間の予算である経常利益320百万円を達成することができました。第1四半期では原油・ガソリンの急激な高騰による物流費、資材費等の上昇や、国産野菜の需要集中による、一時的な原価率の上昇がありましたが、早期対応策として取り組んだ、物流網の再構築、販売価格の改定、契約産地との安定供給体制の強化により短期間での収益改善を行うことができました。

また、昨年竣工した大阪デリカフーズ株式会社兵庫工場が、売上・経常利益ともに順調な伸びを示していること、東京デリカフーズ株式会社横浜センターにて新規商品として製造販売を開始している過熱野菜が、売上・経常利益とも軌道に乗り始めたことも業績伸張の大きな要因です。

さらに、各子会社にて取り組んだ原価低減(コスト削減)や、契約栽培面積の拡大による国産野菜への切り替えが順調に進んだことも収益面に大きく貢献しています。

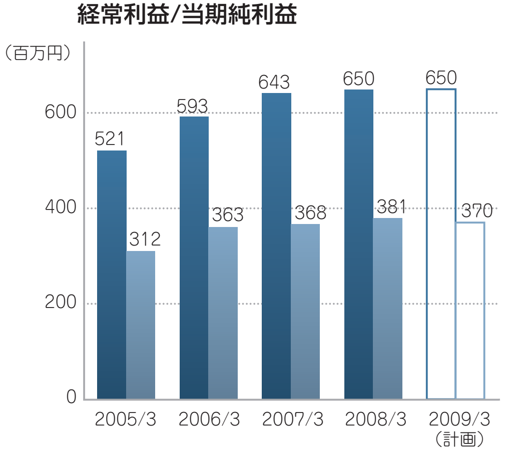
売上につきましても第2四半期連結累計期間の予算の9,900百万円を上回り、10,036百万円を達成することができました。外食産業の既存売上が低迷する中、新規顧客の獲得が進み、売上増加に貢献いたしました。



今後の見通し

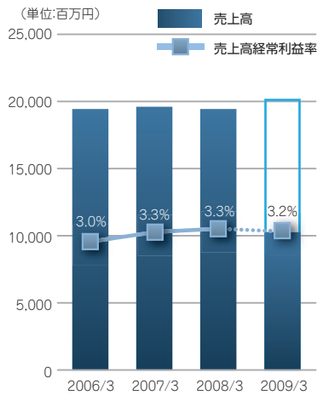
当期の業績見通しにつきましては、当社グループの[生産者 ― デリカフーズグループ ― ユーザー]の連携の仕組みにより培った経験を活かし、新たな販売チャネルの開拓や、過熱野菜の本格稼動の実施を計画しております。また、東京デリカフーズ㈱の東京センターにおける新工場設立に関して経費の増大、不動産取得税(特別損失)、有利子負債による利子の増大がありますが、新規顧客獲得による売上増大、作業の効率化によって、連結売上高20,100百万円、連結経常利益650百万円、連結当期純利益370百万円を見込んでおります。

研究開発については今後も継続し、アメリカの抗酸化表示の流れに対応するため、当社は日本の野菜における抗酸化表示の『さきがけ』となりつつあります。継続的に行って来たことにより、野菜の中身評価によるブランド化販売戦略の実現化に近づいて参りました。今までの当社の研究が評価される時期と考えております。

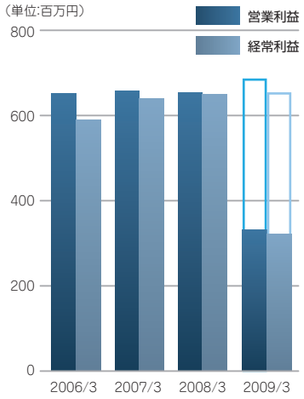


財務ハイライト Highlight

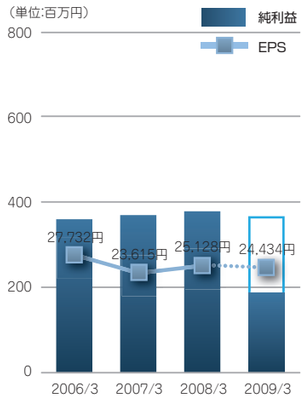
売上高／売上高経常利益率



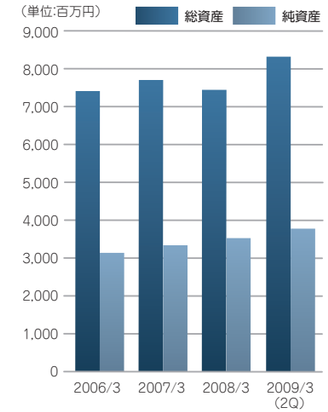
営業利益／経常利益



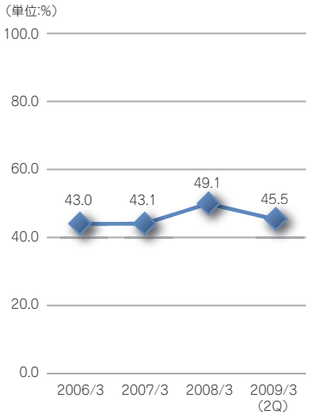
純利益／EPS



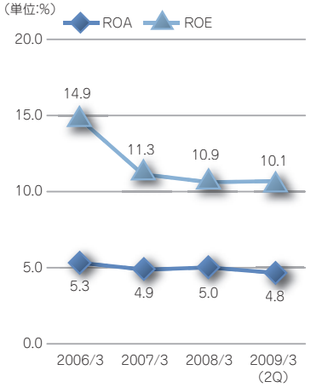
総／純資産



自己資本比率



ROA／ROE



トピックス Topics

Topics 1 兵庫工場本格稼動しました

昨年3月、兵庫県加古郡稲美町に大阪デリカフーズ（株）兵庫工場を設立し、4月から本格稼動しました。グループのノウハウが活かされた衛生的で、野菜に適した工場です。

Topics 2 新しい提案「過熱野菜」

東京デリカフーズ（株）横浜センターに、高温水蒸気で野菜を焼く生産ラインが完成し、販売を開始しました。素材の味を生かし、さらに旨みを引き出します。まだまだ可能性を秘めた新商品です。

Topics 3 抗酸化研究室を設立しました

昨年10月にデザイナーフーズ(株)は「名古屋医工連携インキュベータ」内に抗酸化研究室を設置しました。また今年10月に全ての研究設備をインキュベータに移しました。これによって、当社グループで8年間研究を続けてきた「野菜の抗酸化力」の立証が加速し、個々の野菜が持つ力を数値で表示できる時代に向けて大きく前進します。

Topics 4

野菜塾拡大版を実施しました

グループ各社で、お客様、生産者の方々、大学・研究機関の方々などを対象に定期的に野菜の勉強会を行っていますが、昨年9月に品川にて、大規模な健康野菜塾を行いました。アメリカでの食品抗酸化力表示の流れを受け、国内での今後の取り組みを始めとする「医・食・農 連携の時代」をテーマにセミナーを行いました。

Topics 5 「ベジワイン」発売中です

鶴見酒造様と名古屋デリカフーズ（株）とのコラボレーションで、野菜をまるごと使った、とってもLOHASな野菜ワインができました！
百貨店や、インターネットショップなどで販売しています。

Fresh! & Speedy!!

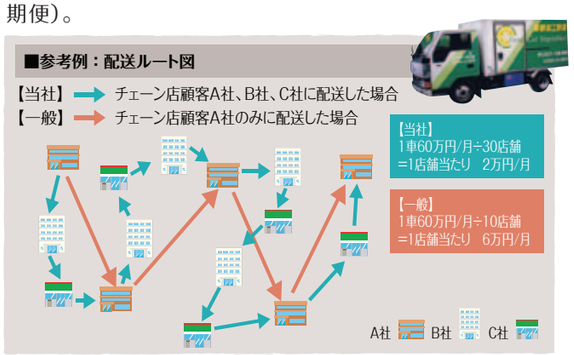
私たちは、新鮮野菜をデリバリーする（配達）八百屋です。

デリカフーズは農業と科学者の目を持った業務用の八百屋です。
産地からデリカフーズに野菜が届くまでは、生産者の方と一緒に美味しく
栄養がギュッと詰まった野菜作りに「農業の目」を持って、取り組んでいます。

デリカフーズに届いた野菜は、保存、カット技術、包装、配送に至るまで
「科学者の目」を持って、お客様にお届け致します。
野菜は生き物、365日お客様のご要望に応じて、毎日野菜をお届けします。
この他にも野菜の栄養分析や残留農薬検査、メニュー提案や勉強会も行っております。

Point 1 365日、各店舗配送機能

必要なときに必要な量を店舗ごとに届ける配送網。東京・大阪・名古屋など主要なエリアに張り巡らした物流網を持つ。
チルド物流（野菜を常温帯からチルド帯へ）配送効率（定時定期便）。



Point 2 鮮度を保ったまま野菜を運ぶ技術力

「野菜の生理」を研究し、鮮度の良い野菜提供。鮮度を保つためのカット野菜鮮度技術・パッケージ技術、運搬方法。

（注）MA製品：酸素と二酸化炭素の割合を調節し、呼吸による商品劣化を抑える技術。
Modified atmosphere

Point 3 価格管理機能

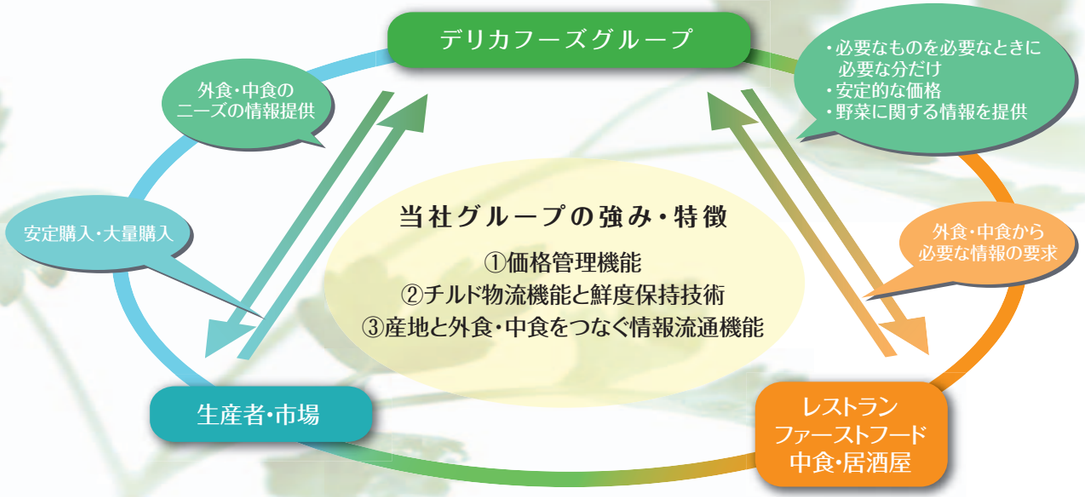
外食・中食産業のお客様の必要量を把握しているため、契約産地と作付面積や価格を前もって決めることが可能。

**価格変動が激しい青果物においても
安定価格・安定供給が可能**

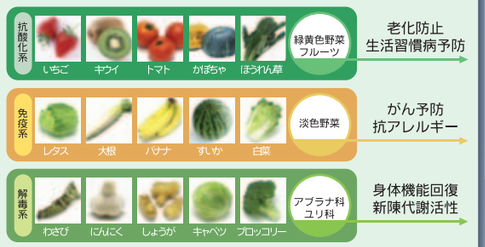
Point 4 産地と外食・中食をつなぐ情報流通機能

外食・中食産業の売れ筋商品を契約産地の生産者に伝え、産地活性化のお手伝いをしています。また、契約産地の新顔野菜を外食・中食産業に提案し、メニュー開発が来店頻度アップにつながる野菜作りの開発を行っております。写真の「ルッコラ」はその一例です。当社が先駆けて、現在では広く普及しました。

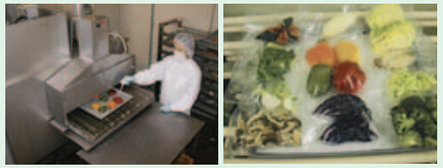
**デリカフーズは野菜の全てを熟知し、
顧客のニーズに応えてまいります。**



野菜の機能



加熱加工野菜の開発



野菜の非破壊評価測定機

抗酸化力
免疫力　解毒力
形から、中身
（野菜の力）評価へ

健康と環境

医療費削減
日本人に不足している
栄養を健康な野菜から

食育・食の改善
啓蒙活動
加熱加工野菜
販売開始

野菜を形から
中身の評価へ
野菜の抗酸化力・
免疫力・解毒力を測る

生産者と流通
消費者のスクラム
安心安全と情報を
お届けします

農薬
ポジティブリスト制
原産地表示
JGAP

農業は酸素製造業
水資源・耕地・
環境を守る

青果物ロス削減
生産地から流通で
発生するロスの削減

野菜残渣（生ゴミ）
リサイクルシステム
構築

デリカフーズは
農業の発展に貢献します。

外食・中食・生産者様との勉強会の開催
「健康野菜塾」

旬の野菜、こだわり野菜の展示

ゼブラフィッシュによる
野菜評価・システム構築中
抗酸化力・免疫力・解毒力を分析

野菜を与えて効果を調べる

東京・名古屋・大阪で本格稼働

ＩＴを利用した情報管理

在庫・仕入・発注システム構築へ

産地開拓

チルド物流

チルド管理

カット工程

カット野菜

衛生チェック

ピッキング工程

メニュー開発

研究開発

各種勉強会

産地指導

残渣の堆肥化

収穫

真空予冷

デリカフーズグループは、
地球環境にやさしい循環型の
事業を目指しています。

生産地から料理まで、さらに体内の代謝まで

畑で採れた新鮮健康な野菜を、
お客様のもとへお届けしています。
より良い野菜を栽培するために、
野菜を農場からお皿まで履歴がわかるようにし、
野菜と土の研究を深め、その結果を農家さんに還元しています。
野菜残渣も、畑に帰して、
次の世代の野菜栽培に生かしています。

四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位:千円）

科　目	第6期 第2四半期連結会計期間末（平成20年9月30日）	第5期 連結会計年度末（平成20年3月31日）
（資産の部）		
流動資産	**3,862,497**	**3,874,634**
現金及び預金	1,790,420	1,646,079
売掛金	1,919,616	2,101,807
商品及び製品	45,473	45,835
仕掛品	1,377	1,605
原材料及び貯蔵品	18,000	19,276
その他	108,043	79,348
貸倒引当金	△20,434	△19,319
固定資産	**4,444,194**	**3,557,037**
（有形固定資産）	4,083,254	3,115,133
建物及び構築物	1,274,251	1,319,005
土地	2,457,900	1,454,692
その他	351,102	341,434
（無形固定資産）	35,779	39,717
その他	35,779	39,717
（投資その他の資産）	325,160	402,187
その他	338,544	417,236
貸倒引当金	△13,384	△15,048
資産合計	**8,306,692**	**7,431,672**

科　目	第6期 第2四半期連結会計期間末（平成20年9月30日）	第5期 連結会計年度末（平成20年3月31日）
（負債の部）		
流動負債	**2,453,681**	**2,586,163**
支払手形及び買掛金	1,075,012	1,224,836
短期借入金	430,000	430,000
1年内返済予定の長期借入金	182,078	199,419
未払金	493,963	521,421
未払法人税等	135,626	114,136
賞与引当金	62,778	54,972
その他	74,223	41,376
固定負債	**2,076,721**	**1,194,237**
長期借入金	1,938,495	1,145,299
退職給付引当金	41,530	48,238
その他	96,695	700
負債合計	**4,530,402**	**3,780,401**
（純資産の部）		
株主資本	**3,798,065**	**3,669,536**
（資本金）	759,755	759,755
（資本剰余金）	1,591,242	1,591,242
（利益剰余金）	1,558,397	1,432,961
（自己株式）	△111,331	△114,423
評価・換算差額等	**△21,775**	**△18,266**
（その他有価証券評価差額金）	△21,775	△18,266
純資産合計	**3,776,290**	**3,651,270**
負債及び純資産合計	**8,306,692**	**7,431,672**

流動資産は、売掛金が182百万円減少したこと、一方、現金及び預金が144百万円増加したことなどにより、0.3%減少しました。

固定資産は、東京デリカフーズ（株）の新工場用地取得などにより土地が1,003百万円増加したことなどにより、24.9%増加しました。

流動負債は、支払手形及び買掛金が149百万円減少したことなどにより5.1%減少しました。

固定負債は、東京デリカフーズ（株）の新工場用地取得のための金融機関からの借入れなどにより、長期借入金が793百万円増かしたことなどにより73.9%増加しました。

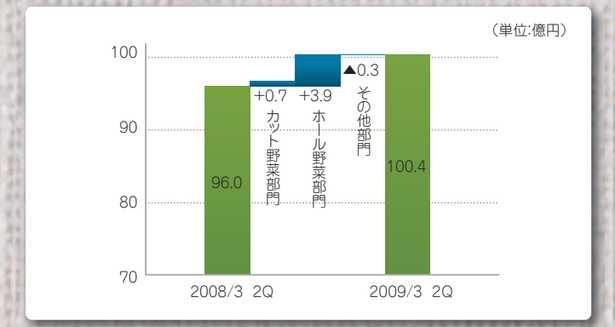
純資産は3.4%増加しました。

四半期連結損益計算書（要旨）

（単位:千円）

科　目	第6期 第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）	（参考）第5期 中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）
売上高	**10,036,431**	**9,595,153**
売上原価	7,429,367	7,139,477
売上総利益	**2,607,063**	**2,455,675**
販売費及び一般管理費	2,274,643	2,127,030
営業利益	**332,420**	**328,645**
営業外収益	6,369	21,471
営業外費用	16,589	17,270
経常利益	**322,200**	**332,845**
特別利益	6,505	5,791
特別損失	6,191	719
税金等調整前四半期純利益	**322,514**	**337,917**
法人税等合計	134,384	141,264
四半期純利益	**188,129**	**196,652**

（参考）売上高増減の部門別分析

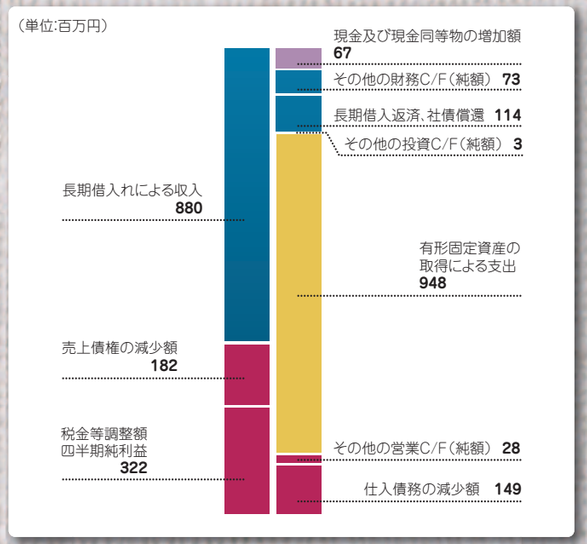


四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位:千円）

科　目	第6期 第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）	（参考）第5期 中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）
Ⅰ営業活動によるキャッシュ・フロー	326,821	127,404
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー	△951,912	△124,256
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー	692,776	△61,319
Ⅳ現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
Ⅴ現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	67,684	△58,171
Ⅵ現金及び現金同等物の期首残高	1,101,860	1,425,729
Ⅶ現金及び現金同等物の期末残高	1,169,545	1,367,557

（参考）四半期連結キャッシュ・フローの分析



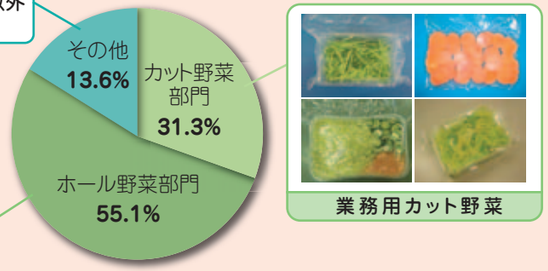
売上高(連結)構成比（第6期　第2四半期連結累計期間）　Sales Composition

部門別売上高(連結)構成比

（第6期　第2四半期連結累計期間）

当社グループの事業は、青果物事業ならびにこれらの付帯業務の単一事業であり、外食産業・中食産業向けにホール野菜の販売、カット野菜の製造・販売等を行っております。

連結売上高合計　10,036百万円



丸ごとの野菜

業務用カット野菜

●その他部門

金額はほぼ横ばいですが、他部門の構成比が増加したため、その他部門の構成比は減少しました。売上高は1,367百万円(前年同期比1.9%減)となりました。

●ホール野菜部門

新規顧客の獲得および大手既存顧客の売上拡大が当社グループ全体の売上を伸ばしました。8月中旬から9月上旬のゲリラ豪雨の影響もありましたが、生産者との取り組み等によって原価率を抑えることができました。売上高は5,532百万円(前年同期比7.7%増)となりました。

●カット野菜部門

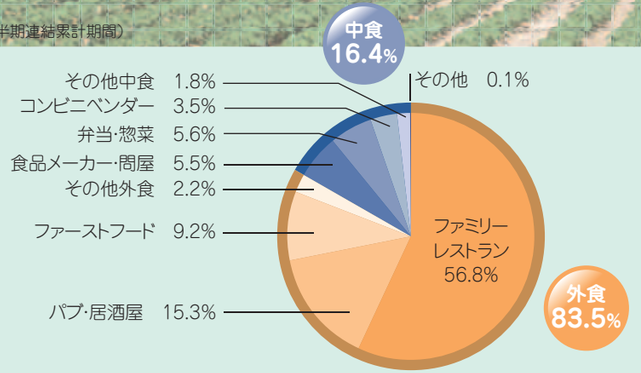
第1四半期におきましては、全国的に国産野菜への需要が集中したため原価率を上昇させる結果となりましたが、生産コストの削減および国産原料の安定調達により、第2四半期におきましては原価率をさげることができました。売上高は3,136百万円(前年同期比2.4%増)となりました。

(参考)業種別売上高(連結)構成比

（第6期　第2四半期連結累計期間）

外食産業の売上は前期の83.2%から0.3ポイント増加し、83.5%となりました。中食産業の売上は前期の16.7%から0.3ポイント減少し、16.4%となりました。

外　食	(%)	中　食	(%)
ファミリーレストラン	56.8	食品メーカー・問屋	5.5
パブ・居酒屋	15.3	弁当・惣菜	5.6
ファーストフード	9.2	コンビニベンダー	3.5
その他	2.2	その他	1.8
計	83.5	計	16.4



今後の戦略　Strategy

Strategy 1

野菜と果物の抗酸化力表示

アメリカでは食品に抗酸化力を表示して販売しはじめました。日本では当社グループが8年前から野菜や果物の抗酸化力の分析を行い、莫大なデータが蓄積されました。日本での抗酸化力表示の“さきがけ”となりたいと思います。

Strategy 2

「過熱野菜」の販売力強化

野菜を当社独自の製法で加熱した野菜の販売を開始しました。この商品の特徴(栄養価を維持など)を説明し、販売拡大に向けて取り組んでおります。

Strategy 3

工場および物流センターの設備投資

昨年の兵庫工場立上げによって西日本の顧客対応の準備が整いました。次は日本最大のマーケットである首都圏に対応すべく東京の新工場建設準備に入ります。

Strategy 4

販売先(お客様)と仕入先(生産者、荷受と仲卸)との協力体制強化

生産者と中間物流業者との連携によって、より鮮度が高くて、より安心・安全な野菜をお客様にお届けできるように情報力・技術力・ネットワークの力を上げております。

Strategy 5

新しい業態へ販売の取組み

野菜の成分分析、抗酸化研究から野菜の販売方法の開発に取り組んでおります。人間に必要な「野菜の力」(抗酸化力・免疫力・解毒力)をより解りやすく、表示・啓蒙して販売チャネルを広げていきたいと考えています。

デリカフーズのCSR活動　私たちは野菜に感謝しています。

農　業

野菜の価値が形や大きさで決まる仕組みのままでは、中身の良い野菜を作っても、価格競争で負けてしまいます。当社グループは野菜の中身評価に取り組み、中身の良さで野菜の価値が決まる仕組み作りを通じて日本の農業発展を目指します。

健　康

野菜の力(抗酸化力・免疫力・解毒力)を解明するとともに、おいしく、食べやすい組み合わせや調理法等を研究し、健康な食生活の提供に貢献します。

食の安全安心

野菜の入荷・加工・流通過程全てにおいて低温を維持する「コールドチェーン」を徹底し、野菜に負荷をかけずに新鮮さを保ちます。また、原産地表示に積極的に取り組み、安全安心を求めるユーザー(顧客)に対応しています。

環　境

大切な資源である野菜を最大限利用する技術の開発と、残渣となった野菜を飼料や肥料にして、リサイクルを実施しています。